

範囲指定なし 第5問 問題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、問題文で指示されている勘定科目以外は、許容勘定科目表から最も適当と思われるものを選ぶこと。

1. 現金の実際残高が帳簿残高より¥50,000 不足していたので、現金過不足勘定で処理しておいたが、その後、原因を調査したところ、交通費の支払額¥30,000、通信費の支払額¥5,000 および手数料の受取額¥10,000 が記帳もれとなっていた。残りは原因不明につき、決算のため、適切な勘定に振り替えることとした。
2. 当期に売買目的で購入していた群馬商事(株)の株式 10,000 株のうち、2,500 株を 1 株につき¥3,000 で売却し、代金は現金で受け取った。なお、10,000 株は 3 回に分けて購入しており、1 回目は 5,000 株を 1 株あたり¥2,800、2 回目は 3,000 株を 1 株あたり¥2,700、3 回目は 2,000 株を 1 株あたり¥2,900 で購入した。なお、株式の払出単価は、総平均法により計算するものとする。
3. 当期に計上した売掛金¥150,000 が貸倒れとなった。なお、貸倒引当金勘定残高は¥100,000 であった。
4. 当月の研究開発部門の人件費¥500,000 と研究開発用の材料の購入代金¥200,000 を小切手を振り出して支払った。また、研究開発目的のみに使用する実験装置¥600,000 を購入し、その支払いは翌月末払いとした。
5. 文房具店を営む神奈川文具(株)は、商品を販売し¥20,000 分の自治体発行の商品券を受取った。
6. 決算にあたり、備品（取得原価；¥2,000,000、減価償却累計額；¥1,280,000）の減価償却を、計算方法；定率法、償却率；40%、仕訳方法；間接法にて行う。
7. 栃木商事(株)は、過年度の法人税等について更正を受け、追徴額¥940,000 を小切手を振り出して納付した。
8. 土地に対する固定資産税のうち、¥50,000 を現金で納付した。
9. アメリカの得意先に商品 1,000 ドルを掛にて輸出した。このときの直物為替相場は 1 ドル¥110 であったが、取引銀行との間で 1,000 ドルについて 1 ドル¥115 とする為替予約契約を締結した。
10. 親会社の売掛金期末残高のうち¥300,000 は子会社に対するものであり、子会社の買掛金期末残高のうち¥300,000 は親会社に対するものである。連結上必要な債権債務の相殺消去仕訳を行いなさい。

範囲指定なし 第5問 模範解答

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	旅費交通費	30,000	現金過不足	50,000
	通信費	5,000	受取手数料	10,000
	雑損	25,000		
2	現金	7,500,000	売買目的有価証券	6,975,000
			有価証券売却益	525,000
3	貸倒損失	150,000	売掛金	150,000
4	研究開発費	1,300,000	当座預金	700,000
			未払金	600,000
5	受取商品券	20,000	売上	20,000
6	減価償却費	288,000	備品減価償却累計額	288,000
7	追徴法人税等	940,000	当座預金	940,000
8	租税公課	50,000	現金	50,000
9	売掛金	115,000	売上	115,000
10	買掛金	300,000	売掛金	300,000

【解説】

2. 1回目 5,000株 @ ¥2,800 ¥14,000,000
 2回目 3,000株 @ ¥2,700 ¥ 8,100,000
 3回目 2,000株 @ ¥2,900 ¥ 5,800,000
 合計 10,000株 ¥27,900,000 平均単価 ; ¥27,900,000 ÷ 10,000株 = ¥2,790
 取得原価 ¥2,790 × 2,500株 = ¥6,975,000 < 売却価額 ¥3,000 × 2,500株 = ¥7,500,000
 ⇒ ¥525,000 売却益
6. (¥2,000,000 - ¥1,280,000) × 40% = ¥288,000
9. 1,000ドル × ¥115 = ¥115,000